12/18 朝刊

首相 赤木さん妻との面会否定

補正予算 20日に採決

岸田文雄首相は十七日の参院予算委員会で、森友学園に関する決裁文書改ざんを苦に自殺した財務省近畿財務局の元職員赤木俊夫さんの妻雅子さんと面会することに否定的な姿勢を示した。雅子さん側が財務省の調査報告書の関連文書開示を求めた訴訟が進行中だとして「直接お会いすることは慎重でなければならない」と述べた。一方、予算委理事会は二〇二一年度補正予算案を二十日の委員会で採決する日程を決めた。補正予算は同日の参院本会議で成立する方向となった。

共産党の小池晃書記局長は「雅子さんに会って謝罪と説明をすべきだ」と追及。首相は「私自身も国会やさまざまな場を通じて、説明責任に応えていかなければならない」と語った。

首相は、改ざんや不適切な廃棄が批判された公文書の扱いを厳格化するため、文書管理のデジタル化を加速させる考えを示した。「デジタル庁中心にしっかり進めたい。必要であれば法改正も考える」と言明した。

日本維新の会の音喜多駿氏は、安倍政権や菅政権が改善策を講じなかったと指摘し全文書をデジタル化すべきだと提案した。首相は「公文書管理は民主主義の根幹だ」と強調した。内閣府の担当者は、各行政機関が新規作成した文書に占める電子媒体の割合は一九年度で15・1%だと説明した。

首相は、子ども関連施策の司令塔となる新組織の体制について、他省庁から移籍する職員数の合計を超える定数を設定し、機能強化を目指す方針を表明した。

後藤茂之厚生労働相は新型コロナの空港検疫を巡り今月六日から十二日までの入国者で感染が判明した八十九人のうち、二十九人は入国三日目以降の検査で陽性になったと明らかにした。